

医動物・種類同定検査結果(令和元年10月～令和2年3月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和元年10月から令和2年3月の6ヶ月間の種類同定検査報告件数は、7件で内訳は、昆虫類2件(コウチュウ目2件)、その他の節足動物3件(ダニ目1件、クモ目2件)、その他2件(ミミズ綱、不明)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 (相談月)	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
住宅1階の床下点検口付近に虫が複数個体みられる。 (12月) 2階台所上部の屋根裏収納に置いてあった段ボール下に虫体を発見した。 (1月)		コクヌストモドキ (コウチュウ目)	穀粉害虫として最も普遍的な種で、小麦粉などの穀物をはじめ、ビスケットなどの菓子類、パン類など、多くの食品を食害する。明るい場所でよく飛ぶ。近年、新築家屋内に本種が多数飛来する事例がみられるが、その原因は不明である。
玄関外のモルタル柱、和室の部屋前濡れ縁、屋外の洗濯物等に小さい虫が、毎日、数匹ずつ出現する。 (2月)		オオワラジカイガラムシ (カメムシ目)	カシ類、シイ、マテバシイなどの樹木に寄生する。本種幼虫は、冬期(主に12月上～下旬頃)にふ化する。ふ化した幼虫は、寄生植物を求めて移動し、屋内への侵入、洗濯物に付着することがある。
クモ及び卵囊を採取した。 (10月:2件)		セアカゴケグモ (クモ目)	体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。攻撃性はないが、直接手で触れると咬まれることがあるので注意が必要である。咬まれると激しい痛みを感じた後に腫れ、まれに全身症状(痛み、発汗、発熱など)が現れることがある。重症化することは少ない。
			卵囊
	雌成虫、黒色、背面及び腹面に赤い斑紋あり、10mm		

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
マンションの一室の巾木の角に小さな虫が大量にいる。 〈9月〉	 乳白色、0.3~0.5mm	ケナガコナダニ (ダニ目)	あらゆる食品類を食害する。またカビも摂食するため、畳などから発生することもある。
	 乳白色、0.4mm	カザリダニ科の一種 (ダニ目)	堆肥、干し草、納屋、落ち葉などから見出される。自由生活性であるが、昆虫に付着することもある。また屋内塵からも発見され、カビを摂食することがある。
水洗便所の水貯留部の底に虫が沈んでいた。 〈1月〉	 褐色、0.8mm	ミミズ綱の一種 (ミミズ綱)	体は一般的に細長く、多数の規則正しい環状の体節からなり、前体部に肥厚した部分(環帯)がある。体表に短い剛毛がみられる。淡水・陸・海水に住む。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】